



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2025年2月9日(日) 9:30~12:00 (快晴)

参加者 一般: 4名

指導員: 2名

テーマ 生きものの冬越し

今季一番の寒波で、前日(8日)は積雪のため138タワーパークは閉園でした。今日は日陰に雪が残る中、雪化粧した伊吹山を見ながらの観察会です。

まずは、駐車場近くの植え込みでカマキリの仲間の卵鞘を探しました。葉が落ちたユキヤナギなどの枝にオオカマキリとハラビロカマキリの卵鞘があわせて10個程付いていました。10m程の区間でしたから、かなりの密度と言えます。陽当たりのよい川原の草の上ではナナホシテントウが動いていましたが、エノキの幹ではヨコツナサシガメの幼虫が窪みに集まって越冬中でした。

エノキの根元の落ち葉をめくってゴマダラチョウの幼虫を探しま

しましたが見つからず、代わりに冬眠中のキリギリスの仲間の幼虫やワカバグモが出てきました。大野極楽寺公園にては、近年外来種に押され気味で見かけなくなったイラガの繭がありました。

堤防道路脇で植物の冬越しの一形態のロゼットを観察しました。ブタナ、ヒメブタナ、タンポポ類、チチコグサ、ウラジロチチコグサなどキク科のロゼットが集まっていました。葉の厚さ、表面の毛の多寡、触感などで違いを確認しました。

ヒガンバナやコヒガンバナは、花が終わるとすぐに葉を伸ばし始め、今は葉を繁らせて光合成を行い、秋の開花に備えて養分を蓄えています。一方、春になって葉を展開すると言われていたキツネノカミソリが生えていた所を探しても、未だ葉は伸びていませんでした。同じヒガンバナ属(Lycoris)の植物でも、林の中で生育するキツネノカミソリは主に開けた草原で生育するヒガンバナなどとは生活サイクルがずいぶん違っているようにみえます。

大野極楽寺公園のミヤマウグイスカグラは、早いと12月から咲き始めますが、今季は低温のせいでしょうか、この日もまだ蕾のままでした。一方、近くの池の周りのハンノキは雄花序が伸び、まもなく花粉が飛びそうな状態でした。シナレンギョウやベニバナトキワマンサクも少数ながら花が見られ、春の近さが感じられました。

野鳥では、今季市街地ではほとんど姿を見かけないツグミが数は多くないものの出現したほか、イカルやジョウビタキなど冬の定番の野鳥が見られました。ただし、これまでほぼ毎年出現していたシメの姿は確認できず、例年とは少し様子が異なっているようです。

(報告: 齋竹)

<その他観察できたもの>

鳥: トビ、コゲラ、ハクセキレイ、キジバト、ドバト、ヒヨドリ、シロハラ、シジュウカラ、エナガ、メジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス

花: ソシンロウバイ、ジュウガツザクラ、ヤブツバキ、サザンカ、セイヨウタンポポ、ホトケノザ

蕾: トサミズキ



前日の雪が残る堤防下で冬鳥を観察



冬眠していたキリギリス類の幼虫



近年あまり見られないイラガの繭



今が稼ぎ時のヒガンバナの葉



早春に咲くハンノキの雄花と雌花